

番号	44	名称	聖橋
指定日	平成 19 年 3 月 28 日	所在地	神田駿河台四丁目～文京区湯島一丁目（神田川）
設計者	山田守、成瀬勝武	竣工	昭和 2 年（1927）



歴史・文化的特徴

震災復興事業により新たに架けられた橋。

北の神田聖堂と南のニコライ聖堂という二つの聖堂を結ぶ橋として「聖橋」と命名された。

意匠・構造の特徴

東京電信電話郵便局の設計などで知られる山田守がデザインした橋梁の代表作。

当時建築デザインにおいて流行した表現派風の塑形的な意匠が特徴的である。

神田川にかかる大アーチに外堀通りや中央線の線路をまたぐ小アーチ橋が付属した橋梁。現在は護岸の緑が育ち全容がわかりにくくなっている。こうした構成のため橋の全長は約 90m で神田川にかかる橋梁のうち最も長い。

親柱、高欄は一体化してモダニズムの影響を感じるデザインとなっている。

周辺景観との関係

橋上は神田川の渓谷を見下ろす絶好の眺望点となっている。また相対するお茶の水橋の全景を見ることが出来る視点場となっている。

渓谷の開けた空間が広がり、相対するお茶の水橋、JR 線や駅など各所から渓谷に調和しアーチが水面に映える光景を見ることが出来る。橋梁は一带のランドマークとなっている。

水面からはアーチ橋と護岸の緑、神田川の水面から構成される雄大な風景を鑑賞できる。